

福祉避難所の開設・運営合同訓練（中津市）の概要

1 目的・背景

能登半島地震では、福祉施設や職員の被災によって、福祉避難所の開設・運営が困難となり、災害時に配慮が必要な高齢者や障がい者が遠隔地への避難を余儀なくされるなど、支援が十分に行き届かなかった事例があった。県では、こうした課題を踏まえ、災害時に福祉避難所の開設・運営が継続できるよう、避難者や職員の相互受け入れなど、施設間の連携体制構築を目的とした訓練を実施するもの。

2 日時・場所

【日時】令和7年10月15日（水）9：00～14：30

【場所】養護老人ホーム中津市豊寿園

3 訓練概要

線状降水帯の発生により、中津市内の福祉施設が被災の危険にさらされているという想定のもと、訓練参加施設の利用者等が**中津市豊寿園に避難**するとともに、避難先で問診や食事提供等を行う。

4 訓練の流れ

- ・9：00～ 訓練概要説明（NPO法人リエラ）
- ・9：20～ 各施設から避難開始
- ・～11：30 養護老人ホーム中津市豊寿園に避難完了
- ・11：30～ 居室誘導、食事対応、運動等
- ・14：30 訓練終了

5 参加施設

- ①養護老人ホーム中津市豊寿園
 - ②特別養護老人ホームやすらぎ荘※
 - ③特別養護老人ホーム望箭荘
 - ④特別養護老人ホーム望箭荘やまくに
 - ⑤望箭荘グループホーム山国
 - ⑥特別養護老人ホームかえで
 - ⑦グループホームあんず
 - ⑧障害福祉サービス事業所もみじ園
- ※訓練当日欠席

6 その他協力団体

NPO法人リエラ、大分県社会福祉協議会、DWATチーム、中津市

7 訓練により見えてきた課題

- ・祝日等の場合の対応への課題感
 - ・豪雨以外の災害時への備えの必要性
 - ・居室までのルートの特示
 - ・ライフラインがダウンした場合の備え
 - ・ホワイトボードを活用した情報共有方法
 - ・避難者の気が紛れる物品の持参
- 等



訓練参加施設の声

- ・受入側を経験したい
- ・受入先が必要とする物品の確認・持参
- ・個室への避難ができ安心
- ・山国と日田市などの広域避難訓練をしたい
- ・職員の家族や近隣住民といった地域の方々を多く巻き込んだ訓練をしたい

等

福祉避難所の開設・運営合同訓練（大分市）の概要

1 目的・背景

能登半島地震では、福祉施設や職員の被災によって、福祉避難所の開設・運営が困難となり、災害時に配慮が必要な高齢者や障がい者が遠隔地への避難を余儀なくされるなど、支援が十分に行き届かなかった事例があった。県では、こうした課題を踏まえ、災害時に福祉避難所の開設・運営が継続できるよう、避難者や職員の相互受け入れなど、施設間の連携体制構築を目的とした訓練を実施するもの。

2 日時・場所

【日時】令和8年1月31日（土）10:30～14:00

【場所】社会福祉法人暁雲福祉会 八風園

訓練参加施設の声

- ・一般避難所への避難は難しいが、**このような福祉避難所の体制なら安心**
- ・今回は避難者1名につき支援者1名付いたが、**次回以降は支援者の数を減らして対応する検証をしたい**等

3 訓練概要等

【想定】豊後水道を震源する地震（津波発生なし）が発生し、市が指定一般避難所を開設したものの、**障がい者は避難所への避難を躊躇しているため**、支援体制がより充実している**八風園**（市の福祉避難所）に**近隣在住の重度の障がい者が避難**
→日頃から6施設（訓練参加施設）に通所している**10名の避難者を1箇所に避難**させ、避難先で食事提供等を実施

【ねらい】支援者が**自施設以外の利用者の受け入れ支援を行った際に生じる課題を洗い出す**とともに、**下記について検証**を行う。

- ① 関係機関との**平時からの情報共有、顔のみえる関係構築**が、いかに避難時に安心して過ごせる環境づくりにつながるか
- ② 支援者が**事前に避難者の特性を共有するために必要な「個別避難計画シート」の記載内容をどのようにするか**。

4 訓練の流れ

- ・10:00～ 避難者受付
- ・10:30～ 避難完了、避難者への個別支援を開始
- ・11:00～ 余震の発生による身を守る行動、レクリエーション
- ・12:00～ 食事対応
- ・13:00～ 食後の健康観察、余震の発生による身を守る行動、レクリエーション
- ・14:00 訓練終了

5 参加施設

- ①(社福)暁雲福祉会 “八風園”、“八風・マーヤの園”、“八風・be”
- ②(社福)杉の木会 知的障害者更生施設 “第二杉の木園”
- ③(社福)新友会 生活介護事業所 “ひまわりの家”
- ④(社福)大分市福祉会 “多機能型事業所 おおいた”

6 その他協力団体

大分県社会福祉協議会、大分市



福祉避難所の開設・運営合同訓練（津久見市）の概要

1 目的・背景

能登半島地震では、福祉施設や職員の被災によって、福祉避難所の開設・運営が困難となり、災害時に配慮が必要な高齢者や障がい者が遠隔地への避難を余儀なくされるなど、支援が十分に行き届かなかった事例があった。県では、こうした課題を踏まえ、災害時に福祉避難所の開設・運営が継続できるよう、避難者や職員の相互受け入れなど、施設間の連携体制構築を目的とした訓練を実施するもの。

2 日時・場所

【日時】令和8年3月15日（日）9:00～10:15

【場所】小規模多機能ホームこすもす

3 訓練概要

震度6強の南海トラフ地震の発生により、津久見市内が津波の危険にさらされているという想定のもと、地域住民が要支援者の避難を促すとともに、福祉避難所同士が連携協定に基づき要支援者の情報交換等を行い、避難者支援に必要な避難環境の整備を図る。

4 訓練の流れ

- ・ 9:00～ 地震が発生し、地区住民の避難開始
- ・ 9:15～ 地区役員が要支援者の自宅を訪問
- ・ 9:30～ 「小規模多機能ホームこすもす」に避難完了
- ・ 9:45～ 連携協定に基づく避難者に関する情報交換、避難者支援
- ・ 10:15 訓練終了

5 参加施設

- ①医療法人一貫軒 介護付有料老人ホーム秋桜 及び
小規模多機能ホームこすもす
- ②社会福祉法人白梅福祉会 特別養護老人ホーム白梅荘

6 その他協力団体

社会福祉法人同心会 高齢者総合福祉施設しおさい、
大分県社会福祉協議会、津久見市

